

広島大学大学院医系科学研究科広報誌 創刊号

HIROSHIMA UNIVERSITY BioMed News

Hiroshima University Graduate School of Biomedical and Health Sciences



大学院医系科学研究科看板除幕式を開催（2019年4月2日：広島大学霞キャンパス）
（左から）岡村保健学研究科長、大段医系科学研究科長、越智学長、木内理事・副学長

目次

ご挨拶

「[大学院医系科学研究科] 設置」 大段 秀樹 1

研究科紹介（副研究科長）

（教 育 担 当）「新しい医系科学研究科に來たれ！」 粟井 和夫 2

（研究・基金担当）「新しい医系科学研究科で革新的研究成果を期待」 田原 栄俊 2

（企 画 担 当）「新研究科でのさらなる飛躍を目指して」 岡村 仁 3

（国 際 担 当）「留学生増員に向けて」 吉子 裕二 3

移行図 4

プログラム紹介（プログラム長）

医学専門プログラム 粟井 和夫 5

歯学専門プログラム 吉子 裕二 5

薬学専門プログラム 紙谷 浩之 6

放射線医科学専門プログラム 松浦 伸也 6

保健科学プログラム 竹本 俊伸 7

薬科学プログラム 小池 透 7

公衆衛生学プログラム 田中 純子 8

医学物理士プログラム 永田 靖 8

生命医療科学プログラム 酒井 規雄 9

改組・再編の概要 10

取得できる学位・免許・資格 10

編集後記 坂口 剛正 11



広島大学



「大学院医系科学研究科」設置

大段 秀樹 大学院医系科学研究科長

平成14年に大学院医歯薬学総合研究科が設置され、その10年後の平成24年には保健学研究科が統合され、医歯薬保健学研究科が創設されました。医学、歯学、薬学、保健学が融合した我が国初の医療系教育・研究拠点です。以来7年間、医系科学分野の学生が同一の研究科内で教育・研究を展開、発展させることで、より高度な医療人養成や研究の進歩を繋げて参りました。霞キャンパス内にある大学病院、原爆放射線医科学研究所及び自然科学研究支援開発センターとも密に連携して、学際的教育・研究活動、学術の高度化・複合化に対応できる研究活動の活性化、異分野融合によるInter-Professional Educationの充実と実践など、柔軟な教育・研究体制が構築されています。

この度、平成31年4月、広島大学の機能強化に向けた組織再編の嚆矢として医系科学研究科が設置されました。医系科学研究科では、教育・研究のさらなる融合とともに、他の研究分野との横断的なプログラムを提供できる教育課程が編成されています。これによって、所属する学位プログラムで深い専門性を身に付けるだけでなく、分野を超えた教員の講義を受講することで幅広い知識を修得することが可能となりました。また、同時に開設されました統合生命科学研究科とも強く連携して、共通の教員で構成される分野横断型の学位プログラムも設置されています。このような組織形態は、専門性を保ちながら迅速に社会実装・グローバル化を実現する為には、非常に有効であると思われます。医学・歯学・薬学・保健学のそれぞれの分野における縦断的研究の深化を基盤として、ミッションのための横断的な分野間の連携・融合を活性化させ、新たな学術体系の創造が期待されます。

本研究科のような総合研究科の魅力と存在意義は、学問の多様性にあります。現在、多くの学問分野が過剰に専門化しています。それぞれの専門家が、自身の専門以外への関心を失くし、狭い研究分野に閉じこもってしまえば、発想が狭小化して革新的な研究から遠ざかってしまいます。一見、かけ離れた領域と思われる研究の中に、本質をひも解く手がかりが見出せることもあります。本研究科で行われている研究は、医療系という括りの中で実に多彩です。「がん・ゲノム医療」、「脳・神経科学」、「再生・免疫・感染・アレルギー」、「老化・高齢者医療・生活習慣病・社会医学」及び「発生・発達・成長期医療」といった、さまざまな研究が自由な発想のもと実施されています。それぞれの専門領域で知識と情報を共有する学際的研究推進部会を組織する一方で、多様性を享受し得るように部会を超えた共通セミナーを企画して参ります。

100年後にも世界で光り輝く大学であることを目指す本学において、単に100年後を予測するにとどまらず、幸福な100年後を創り出す人材を排出し続ける研究科でありたいと思っております。どうぞ、ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



新しい医系科学研究科に来たれ！

栗井 和夫 医系科学研究科
副研究科長（教育担当）

2019年4月に新たに医系科学研究科が発足しました！

本研究科の売りは、一言で言うと、研究科内あるいは他研究科の連携を強力に推進して研究および教育を行うことです。これにより、自分の領域の殻に閉じこもらないグローバルな視点を持つ優秀な研究者の養成を目指しています。

既に、医系科学研究科の中では、「がん・ゲノム医療」、「脳・神経科学」、「再生・免疫・感染・アレルギー」、「老化・高齢者医療・生活習慣病・社会医学」、「発生・発達・成長期医療」の5つの学際的研究推進部会が活動を開始しており、基礎と臨床、あるいは異なる専攻の研究室との連携が取りやすい体制になっています。また、同じ生命科学を扱いながらも従来はあまり交流がなかった統合生命科学研究科（東広島キャンパス）とも連携を強力に進めており、これにより今までになかったような新たな視点の研究が生まれることも期待されます。

他の領域では当たり前になっている手法でも、自分の領域ではほとんど知られていないようなこともしばしばあります。例えば、私の専門の画像診断の領域でも、CTやMRIの造影剤の投与プロトコルは、従来は経験的に決められるのが普通でしたが、近年は薬理学的コンパートメントモデルやフーリエ変換等の数学的手法を応用することにより造影剤の体内動態についての知見が飛躍的に増加し、極めて合理的な造影剤投与が可能になったような事例もあります。

現在、大学院に進学するか否か迷っている方は、深い専門性を追求しつつも他分野とも連携が容易な医系科学研究科で、是非、研究者としての第一歩を始めましょう！



新しい医系科学研究科で革新的研究成果を期待

田原 栄俊 医系科学研究科
副研究科長（研究担当・基金担当）

平成の医歯薬保健学研究科から令和の医系科学研究科に改組されました。この新しい年号とともに大学院も機能強化のための組織改変で、教育においてはより高度かつ魅力的な教育につながるもの、研究においては広島大学の新たな特徴となる革新的な研究の創出につながるものを期待します。これまでと大きく異なることは、

これまで広島大学が培ってきたものはこれまで以上に推進するのは当然のことですが、新しい広島大学の特性を見いだす研究の開拓、これまでに無い研究成果が期待される異分野融合、アカデミア間のみならず産業界との多彩な共同研究の推進による社会還元の見える化、国外の大学や研究機関との積極的な連携推進によるグローバル化など、より高度かつ新しいアイデアを生みだせる組織となるよう新たな革新を目指していきます。医系科学研究科では、研究担当の副研究科長を担当させていただきますが、本年4月より産学連携の副理事も拝命しております。基礎研究から応用研究にいたる研究担当のみならず、大学での研究成果を産業界へとつなげる役割にも力を入れていく所存です。100年後にも世界で光り輝く大学を目指す広島大学は、日々その種となる研究成果を出し続けて社会還元まで結びつけることが持続的な光につながると信じております。また、研究成果のみならずそれらを持続させる人材育成に力を入れていく必要があると考えます。一つの研究成果は、すばらしい「人」により成り立つものであり、その革新的な人材育成も本学から発信していくことが重要と考えています。皆様のご協力を宜しくお願い申し上げます。



新研究科でのさらなる飛躍を目指して

岡村 仁 医系科学研究科
副研究科長（企画担当）

この度、医歯薬保健学研究科から引き続き、医系科学研究科の副研究科長（企画担当）を拝命いたしました。

広島大学は、平成29年4月に新長期ビジョン「SPLENDOR PLAN 2017」を策定・公表しました。その中で謳われている、「新しい平和科学の理念『持続可能な発展を導く科学』」を確立し、100年後にも世界で光り輝く大学としての責務を果たす」ために、さらなる飛躍を期待され医歯薬保健学研究科は医系科学研究科に組織再編されました。新たなプログラムも立ち上がった医系科学研究科の特色を活かした企画を教職員、学生の皆さまとともに立案し、実行していきたいと考えています。

特に、企画担当の大きな役割として、異分野融合によるInter-Professional Education（IPE）の充実と実践があげられます。一年次のIPEは本年度で4年目を迎えほぼ定着しつつあり、今後はそれをどのように発展させていくかが課題といえます。一方、高学年IPEが昨年度から開始となりましたが、こちらはまだ試行錯誤の状況です。しかし、新研究科が目指す医学、歯学、薬学、保健学が融合した医療系教育拠点の形成のためには高学年IPEの充実が不可欠ですので、先生方のご理解、ご協力、ご支援をいただきながら、しっかりとしたプログラムや体制を築いていければと思っています。

大段研究科長のもと、微力ではありますが、新研究科のさらなる発展のために引き続き尽力して参る所存ですので、ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

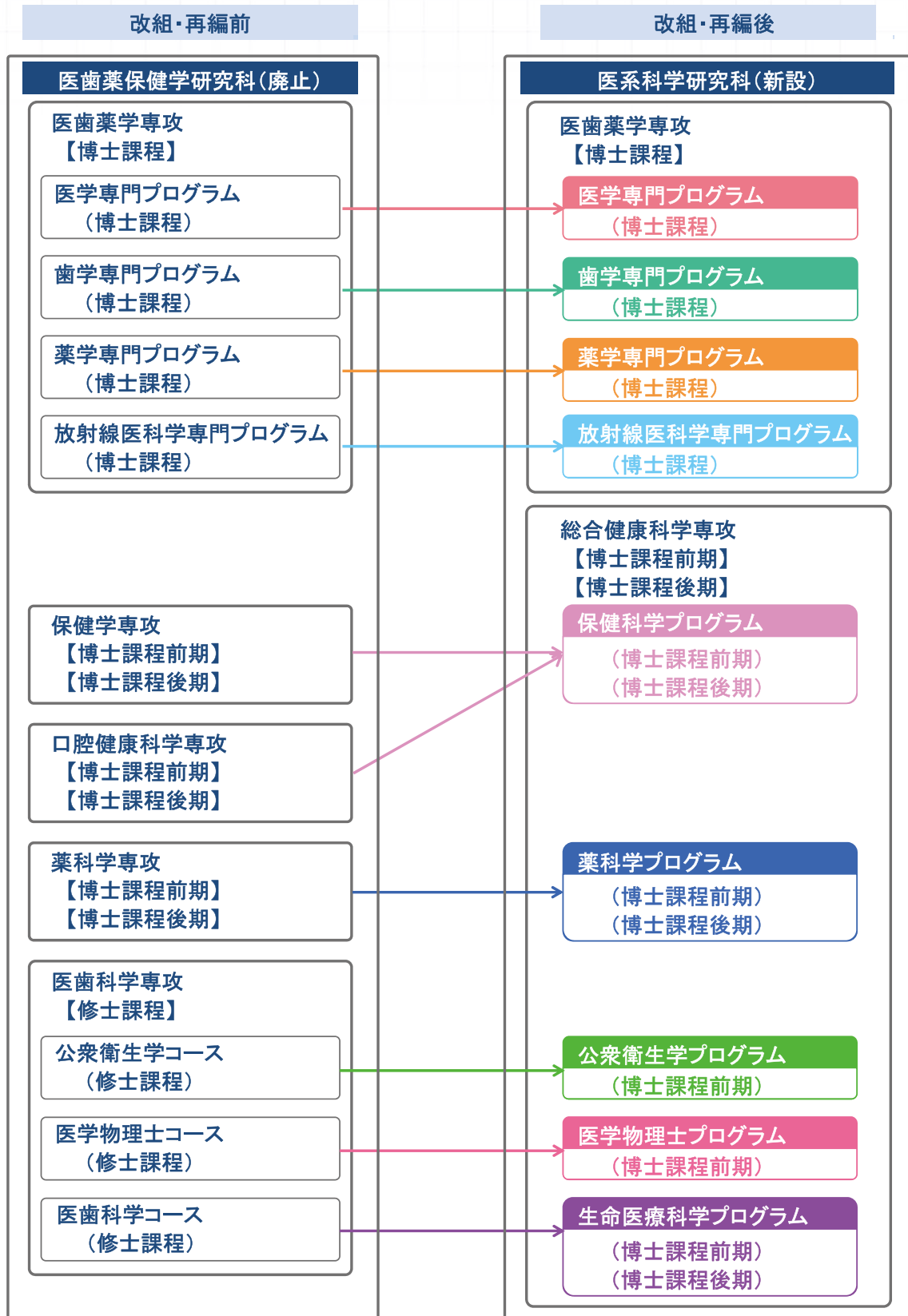


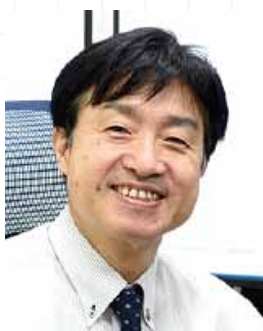
留学生増員に向けて

吉子 裕二 医系科学研究科
副研究科長（国際担当）

本学に期待されるナショナルセンターとしての役割を果たすためには、いくつものハードルを越えなければなりません。国際化の機能拡充もその一つですが、すでに実施いただいている英語による講義や講習会、あるいは書式の英語化を始め、皆様のご尽力により、留学生の教育環境の整備等、受け入れ増員を支える仕組みが改善されてまいりました。その成果として留学生数は徐々に増加しており、医系科学研究科設置の本年度は18名を受け入れています。国別では、中国が12名と突出し、インドネシア等、アジア諸国が各1名です。プログラム別では、保健科学が12名と最も多く、前年度より倍増と大きく貢献していただきました。しかしながら、留学生の数や地域性を含め、欧米の大学あるいは国内上位大学との格差が解消されているとは言えません。新研究科では、各プログラムにおける研究の深化、またプログラム間や学際的研究推進部会などの多様な連携が加速され、革新的な研究成果が生み出されることにより、留学生の増員も期待されます。ご承知のように、日本のインバウンドは右肩上がりで上昇しています。その内訳の大部分がアジア圏であることを鑑みますと、日本への留学を希望する優秀なアジアの学生の潜在数は多いと期待されます。本研究科においても、その掘り起こしは重要なミッションであり、留学生にとってより一層魅力ある教育研究環境整備が求められます。多くの優秀な留学生を積極的に受け入れるため、ますますのお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

2019年4月 「大学院医系科学研究科」設置移行図





医学専門プログラム（博士課程）

栗井 和夫

医系科学研究科 医歯薬学専攻 医学専門プログラム長
医系科学研究科 放射線診断学 教授

「医学専門プログラム」では、医学における幅広い学識と高度な研究能力を有し、学際的・国際的に活躍できる教育者・研究者及び時代の要求に応え、先進的医療技術の開発・応用を担うことができる高度専門医療人を養成します。

シーズの発見、病態モデルの構築、治療開発を大きな柱とし、医学・歯学・薬学各分野の教育・研究を、研究の方法論に基づいて階層的に構築し、前臨床までトランスレーションして、がん、ゲノム疾患、神経精神疾患、組織再生等を対象に、斬新な医療開発に繋がる研究を行うとともに、それらを担う教育者・研究者の養成を行います。

また、これらの基礎的研究成果を基盤に、社会の要請に応えうる基礎医学、臨床医学及び社会医学分野を中心に応用的研究を行い、これを地域社会から国際社会まで広く展開するとともに、それを担う教育者・研究者の養成を行います。

このたびの新しい医系科学研究科の特徴は、医学専門プログラムではなく、医学・歯学・薬学・保健学等の他の分野の教員の講義や研究指導を受けることができることが大きな特徴です。新たなプログラムを活用して、自分の専門領域を超えた広い視野を養うことを目指します。



歯学専門プログラム（博士課程）

吉子 裕二

医系科学研究科 医歯薬学専攻 歯学専門プログラム長
医系科学研究科 硬組織代謝生物学 教授

「歯学専門プログラム」では、歯科医学における幅広い学識と高度な研究能力を有し、学際的・国際的に活躍できる教育者・研究者や、時代の要求に応える先進的医療技術の開発・応用を担うことができる高度専門医療人を養成します。

歯学分野には、①う蝕、歯周疾患、口腔顎顔面領域の発育異常等の歯科疾患発症の分子機構の解明と新しい予防方法の開発、②顎関節症・舌痛症・口腔癌等の難治性歯科口腔疾患の病態解明と治療法に関する研究、③失われた歯・歯周組織並びに顎骨の再生歯科医療、④生体材料の開発や情報歯科医療工学分野における学際的連携による新規歯科医療技術開発研究、⑤食育や口腔疾患と全身疾患の関係解明等の予防・健康発育・健康増進歯学研究、⑥咀嚼嚥下をはじめとする口腔機能の維持向上に関する研究等、他の生命科学研究分野に見られない特有な研究テーマがあります。また、歯科医学の領域から普遍的な生命現象を明らかにする取り組みも行っており、高度先進的な歯科医学基礎研究と歯学臨床研究を推進しています。さらに、歯学部主催のHiroshima Conferenceをはじめ、国際学会での発表・国際共同研究の機会を積極的に設けています。このように、歯学専門プログラムでは、幅広い学識、問題解決能力、独創的研究マインド、国際的な視野を涵養する環境を整え、次世代を担う歯科医学分野の教育者・研究者並びに歯科医療各分野の高度臨床専門歯科医を養成することを目的としています。



薬学専門プログラム（博士課程）

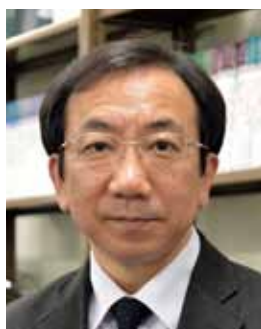
紙谷 浩之

医系科学研究科 医歯薬学専攻 薬学専門プログラム長
医系科学研究科 核酸分析化学 教授

「薬学専門プログラム」では、高度な専門性を有する臨床薬剤師及び研究能力を有する薬剤師（Pharmacist-Scientist）の養成を目的の一つとしています。このような人材を養成するために、医療系薬学領域の教育・研究に携わる教員が中心となって、医療現場で遭遇する問題点の解決能力や高度専門医療人としての能力を育成し伸ばすように教育を行います。また、本プログラムでは、薬剤師の視点と研究能力を有し、薬学系大学教員として活躍できるための教育を行うことも目的としています。

さらに、総合健康科学専攻薬科学プログラムの博士課程前期等を修了して修士の学位を有する学生が、医療系・生物系薬学領域の研究能力を高めるために本プログラムに参加することも念頭に置いております。そのため、近い将来に医療現場で用いられる新薬の開発につながる研究を通じて、高度な薬学研究能力を有する人材を育成します。また、製薬企業・薬学系大学・行政機関等の様々な職種において、修了生がリーダーシップを発揮できる能力を育成することも目的としています。

以上のように、本プログラムでは、我が国の医療薬学および薬物療法の発展に貢献できる人材や医療を中心とした薬学領域で国際的に活躍できる人材を養成することを目指しています。



放射線医科学専門プログラム（博士課程）

松浦 伸也

医系科学研究科 医歯薬学専攻 放射線医科学専門プログラム長
原爆放射線医科学研究所 放射線ゲノム疾患研究分野 教授

安全な放射線利用を支える放射線生物学・防護の研究者及び放射線に高度な専門性を有する医師は、現状では絶対的に不足しており、その養成が以前にも増して緊急の課題となっています。しかし、このような人材を養成できる機関は、我が国のみならず世界的にも不足しています。我が国では、大学での放射線基礎医学関連講座は減少し教育・研究基盤の喪失が起きてきており、同様な事態は欧米諸国でも認められます。

そのため、国際レベルで放射線医科学の体系的な大学院教育が実施できる機関が必要です。これまで、医歯薬保健学研究科において、医歯薬学専攻の中に独立した放射線医科学専門プログラムを置き、本学の原爆放射線医科学研究所（原医研）が大学院教育に参加することで、原医研に蓄積している世界的に貴重な研究資産を大学院教育に活用し、高度な研究を通じた特徴ある放射線障害医学の大学院教育を実施してきました。

医系科学研究科においても、放射線医科学専門プログラムを継続して設置し、臨床放射線医学の教員と原医研の教員が協力することで、放射線生物学を基盤とする放射線影響学や放射線障害医学及び放射線リスク学から臨床放射線医学までの教育を体系的かつ包括的に実施します。本大学院教育は、世界唯一といえる体系的な放射線医科学の教育であり、被爆地ヒロシマにある広島大学に蓄積した放射線障害の研究資産と教育・研究組織によって可能になるものです。

放射線分野の人材養成における世界の期待に応えるため、国際的な観点からも放射線医科学専門プログラムは重要な役割を果たします。



保健科学プログラム（博士課程前期） / （博士課程後期）

竹本 俊伸

医系科学研究科 総合健康科学専攻 保健科学プログラム長
医系科学研究科 口腔保健管理学 教授

高齢者の健康増進は社会的に喫緊の課題となり、その結果、介護施設、地域に密着した在宅等での高齢者ケアにおける看護師、理学療法士、作業療法士に対するニーズは急速に高まり、より高度で総合的かつ専門的な知識と実践が求められています。

また、超高齢社会においては、オーラルフレイルティから低栄養に陥ることによる日常生活動作（ADL）の低下や口腔微生物の誤嚥による肺炎など、口腔と全身との関連が認識され、口腔ケアが全身ケアに必須な要素になっていますが、口腔ケアと全身ケアを総合的に研究あるいは教育する環境は不十分な状況です。そこで、従来の学問・研究分野を超えた連携・融合と基盤的研究の深化を図り、高度なチーム医療を担うことができる高度専門医療人の育成を目的として、博士課程前期・後期にわたって、既存の2専攻（保健学専攻・口腔健康科学専攻）を統合し、これまで全国的にも数少ない「保健科学プログラム」を設置しました。本プログラムは、保健学領域（看護学、理学療法学、作業療法学）、口腔健康科学領域（口腔保健学、口腔工学）からなっています。各領域の教員が協力し、幅広い教育体制を構築することにより、総合的かつ斬新な全身ケア・口腔ケアに関する高度かつ時代に対応した教育・研究が可能となり、各領域ごとに有している海外などの協定校や共同研究施設からの海外留学生の増加や、本学からの大学院生の留学、大学院生・教員間の交流・研究が拡大・加速することが期待されます。



薬科学プログラム（博士課程前期） / （博士課程後期）

小池 透

医系科学研究科 総合健康科学専攻 薬科学プログラム長
医系科学研究科 医薬分子機能科学 教授

急速な国民の高齢化、生活習慣や生活環境の変化は、我が国における疾病構造に大きな影響を与えています。それに伴う医療に対する社会的要請として、がん、痴呆、生活習慣病などの高齢者に多い疾病の克服のため、高度先進医療の普及が叫ばれています。さらに、医師、薬剤師、看護師などの医療従事者が、相互に連携しつつそれぞれの専門性を発揮するチーム医療のさらなる推進も求められています。

高度先進医療において、高品質で有効・安全な新規医薬品の開発は不可欠です。近年の生命科学分野における研究の発展により、医療技術は、飛躍的に進歩しており、遺伝子工学に基づく再生医療や各人の特性に応じたカスタムメイド治療が行われるようになっていきます。一方、医薬品創製に関わる学問分野のグローバル化が急速に進み、世界で活躍する創薬研究者の養成が強く求められています。新規医薬品の創製に携わる人材にとって、最新の生命科学技術を駆使した創薬、ドラッグデリバリー技術、バイオイメージング技術、ドラッグリポジショニング、核酸医薬や抗体医薬などのバイオ医薬品、臨床診断薬、創薬標的生体分子などについて学ぶことは不可欠です。

薬科学プログラムは、我が国における医薬品創製を実践・先導するために必要な研究能力とともに国際的な展開力を身に付けるための教育プログラムとなっており、創薬研究を中心とした分野において指導的立場となる人材の育成を目的としています。



公衆衛生学プログラム（博士課程前期）

田中 純子

医系科学研究科 総合健康科学専攻 公衆衛生学プログラム長
医系科学研究科 疫学・疾病制御学 教授

超高齢化・超少子化社会の進展に伴う疾病構造の変化や急速に進むグローバル化の中で、医療、保健、福祉、医療行政、臨床研究などの現場では、より専門性を深めることが求められています。

また同時に、科学技術の進歩や国際化を含めた社会経済構造の変化に伴い、重要性を増しているレギュラトリーサイエンスの概念*を理解し、効果的に実践できる者が求められています。

このような社会的・学術的要請の下、広島大学では、公衆衛生大学院の国際基準である、(1) 疫学 (Epidemiology)、(2) 生物統計学 (Biostatistics)、(3) 社会科学・行動科学 (Social and Behavioral Sciences)、(4) 保健行政・医療管理学 (Health Service Administration)、(5) 国際保健・環境保健学 (Environmental Health Sciences) の5分野の教育を体系的に行う公衆衛生学プログラム（博士課程前期）(MPHプログラム：Master's Course Program of Public Health)を設置して、リサーチマインドを持ち、科学的根拠に基づく医療 (EBM: Evidence-Based Medicine) を実践する医療従事者や政策の企画立案を担う公衆衛生行政担当者等の養成を行います。

また、このような人材育成の理念の下、外国人留学生の受入れも積極的に行い、将来、当該国において指導者となっていく人材を育成しています。

*：科学技術の成果を人と社会に役立てることを目的に、根拠に基づく確かな予測、評価、判断を行い、科学技術の成果を人と社会との調和の上で最も望ましい姿に調整するための科学

医学物理士プログラム（博士課程前期）



永田 靖

医系科学研究科 総合健康科学専攻 医学物理士プログラム長
医系科学研究科 放射線腫瘍学 教授

医学物理士とは、放射線を用いた医療が適切に実施されるよう、医学物理学の面で貢献する職種であり、近年の社会的な背景により、チーム医療に基づく大学院レベルでの高度な人材養成が求められています。特にがんの放射線治療の分野においては、新規の治療技術開発や臨床試験において他職種との連携により活躍できる医学物理学研究者の養成が求められています。広島大学では高精度放射線治療である体幹部定位放射線治療や強度変調放射線治療および密封小線源治療において最先端技術開発を行っています。

このような社会的背景の下、本学では平成24年4月から大学院医歯薬保健学研究科医歯科学専攻（修士課程）に医学物理士コースを開設し、医学物理士となるために必要な教育を実施しております。また一般財団法人医学物理士認定機構が定めた教育カリキュラムガイドラインに準拠した講義基準の条件を満たすとして、中四国地区で唯一に認定医学物理教育コースとしての認定を受けています。本教育コースの修了者は医学物理士の新規認定において優遇措置を受けられます。

医学物理士プログラムでは、医学物理学分野の高度専門職業人として活躍できる人材の養成だけでなく、医学物理学の普及を担う教育者・研究者として、国内外の大学・医療機関・研究機関・民間企業との人材交流や共同研究を通じて、医学物理学分野で国際的に活躍できる人材の養成を目的としています。



生命医療科学プログラム (博士課程前期) / (博士課程後期)

酒井 規雄

医系科学研究科 総合健康科学専攻 生命医療科学プログラム長
医系科学研究科 神経薬理学 教授

昨今の生命医療科学研究の飛躍的な進歩は、医学・歯学医療を大きく変貌させつつあります。例えば、プレジジョンメディシン、再生医療、ゲノム創薬、AIの医療への活用等は、従来の医療課題の解決へ向けて、大きな期待が寄せられています。

同時に、少子・高齢化に伴う疾病構造の変化や、医療倫理問題、患者の生活の質の改善、福祉工学との連携等、複雑な課題が増加しています。医療従事者のみではこのような領域に対応することは困難であり、多様な専門的背景を持つ人材の学際的活躍が求められています。

本プログラムでは、医学部、歯学部、薬学部及び獣医学部の6年制課程以外の4年制課程の学部等で専門知識や技能を修得した学生を受け入れ、医学、歯学などの生命医療科学に関する基礎的知識の体系的かつ集中的教育を行い、先端的・学際的な研究推進に貢献しうる人材を養成します。

さらに、医療、製薬、医用工学はもとより、様々な研究領域の学際的関連分野において、高度の専門的な学識をもって活躍できる人材も養成します。

博士課程後期では、生命医療科学プログラム (博士課程前期) で養成した人材に、さらに高度な医学や歯学、生命医療科学における先端的・学際的な研究推進能力を涵養させることを目指します。様々な研究領域の学際的関連分野において、中心的な役割を担って活躍する研究者、教育者あるいは医療従事者を養成します。

医系科学研究科の改組・再編の概要

改組・再編前

医歯薬保健学研究科

博士課程	
D 医歯薬学専攻 (入学定員 97名) 医学専門プログラム (80名) 学位: 博士(医学), 博士(学術) 歯学専門プログラム (27名) 学位: 博士(歯学), 博士(学術) 薬学専門プログラム (3名) 学位: 博士(薬学), 博士(学術) 放射線医学専門プログラム (7名) 学位: 博士(医学), 博士(学術)	
博士課程前期	博士課程後期
M 口腔健康科学専攻 (入学定員 12名) 学位: 修士(口腔健康科学)	D 口腔健康科学専攻 (入学定員 4名) 学位: 博士(口腔健康科学)
M 薬科学専攻 (入学定員 18名) 学位: 修士(薬科学)	D 薬科学専攻 (入学定員 3名) 学位: 博士(薬科学)
M 保健学専攻 (入学定員 34名) 学位: 修士(看護学), 修士(保健学)	D 保健学専攻 (入学定員 15名) 学位: 博士(看護学), 博士(保健学)
修士課程	
M 医歯科学専攻 (入学定員 12名) 学位: 修士(医科学), 修士(歯科学), 修士(学術)	

改組
なし

改組

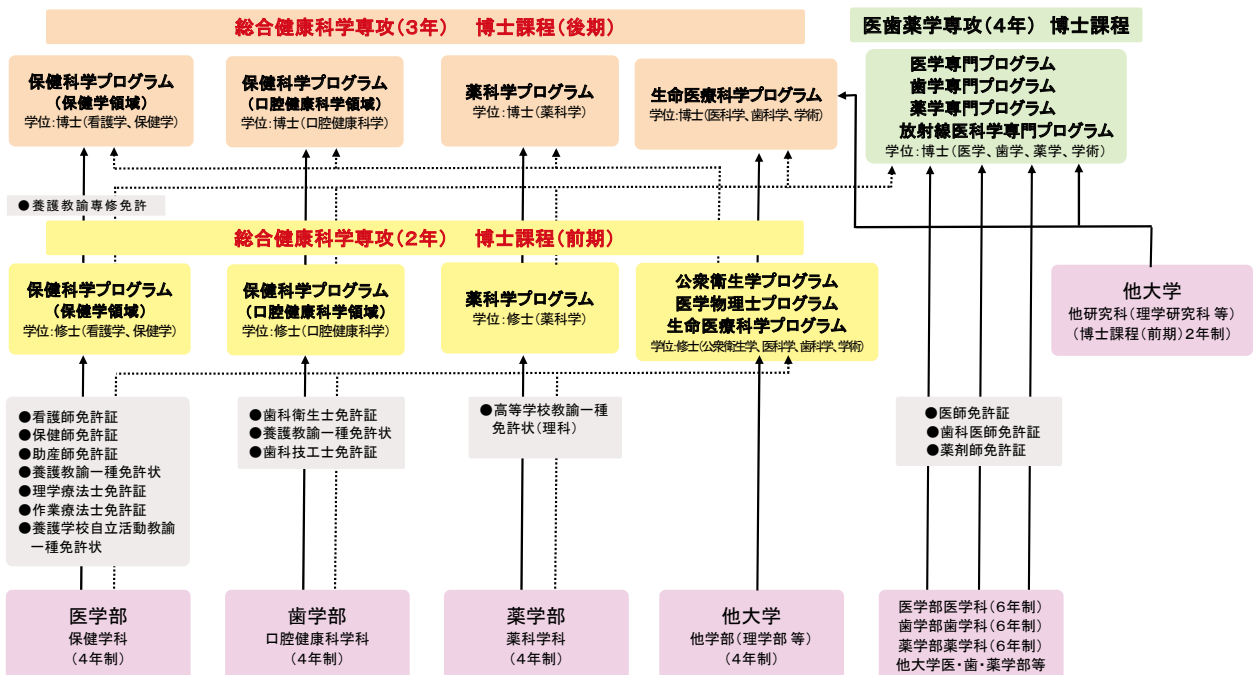
改組・再編後

医系科学研究科

博士課程	
D 医歯薬学専攻 (入学定員 97名) 医学専門プログラム (80名) 学位: 博士(医学), 博士(学術) 歯学専門プログラム (27名) 学位: 博士(歯学), 博士(学術) 薬学専門プログラム (3名) 学位: 博士(薬学), 博士(学術) 放射線医学専門プログラム (7名) 学位: 博士(医学), 博士(学術)	
博士課程前期	博士課程後期
M 総合健康科学専攻 (入学定員 76名) 保健科学プログラム 学位: 修士(看護学), 修士(保健学), 修士(口腔健康科学) (46名)	D 総合健康科学専攻 (入学定員 25名) 保健科学プログラム 学位: 博士(看護学), 博士(保健学), 博士(口腔健康科学) (19名)
薬科学プログラム 学位: 修士(薬科学) (18名)	薬科学プログラム 学位: 博士(薬科学) (3名)
生命医療科学プログラム 学位: 修士(医科学), 修士(歯科学), 修士(学術) (5名)	生命医療科学プログラム 学位: 博士(医科学), 博士(歯科学), 博士(学術) (3名)
公衆衛生学プログラム 学位: 修士(公衆衛生学) (5名)	
医学物理士プログラム 学位: 修士(医科学) (2名)	

※各プログラムにおける人数は、受入目安を示したもの

学位・免許・資格取得のフローチャート



創刊号編集後記

新緑の季節が始まり、世は平成から令和に変わりました。この慶賀すべき年、広島大学では4月1日より新たな大学院である医系科学研究科がスタートしました。広島大学全体の大学院改革の先陣を切って、東広島の統合生命科学研究科と同時に改組・改編されたものです。ますます動きが速くなっている世の中に対応しつつ、広島大学の更なる発展をもたらすような変革が行われました。2012年（平成24年）に霞地区の大学院が統合された医歯薬保健学研究科が発足し、その活動を広く内外に知らせる広報誌として、BHS（Biomedical & Health Sciences）ニュースを7年間で14号まで発行しました。これに続く、名前も新たな「BioMedニュース」創刊号では新たな医系科学研究科の紹介を掲載しております。今後は多彩な企画のもとに研究科の活動を伝えていきますので、ご愛読をお願いいたします。

2019年6月 広報委員長 坂口 剛正

2019年（令和元年）6月発行

編集発行：広島大学大学院医系科学研究科広報委員会
住 所：〒734-8553 広島市南区霞一丁目2番3号
電 話：(082)257-5013（霞地区運営支援部総務グループ）
E-mail：kasumi-soumu@office.hiroshima-u.ac.jp
U R L：<https://www.hiroshima-u.ac.jp/bhs>